

FD NEWS LETTER

自己点検・評価実施委員会

No.13



FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称です。本学では、授業アンケート、FD講演会など、各種FD活動を実施しています。

今回は、2022年度活動実施内容等についてお届けします。

『FDニュースレター』は、年次報告として、FDに関する情報を取り纏め、情報を共有することにより、それぞれの活動を組織的な活動へと発展させるための一助として発行しています。

2022年度 活動実施報告

FD講演会等の実施（詳細はp.4）

（※組織的なFDとするために、各種委員会と協働して開催）

- ☆全学教員協議会 2022/6/4
 - ☆FD講演会 2023/2/28
 - ☆大学院FD講演会 2023/3/23
- をそれぞれ開催しました。

大学教育学会への参加

- ☆大学教育学会第44回大会（6月4-5日）
- 参加者3名（詳細はNo.12に掲載）
- 課題研究集会（11/26~11/27）
- 参加者1名（詳細はp.4）

各種FD活動の報告

- ☆今年度は、教職課程センター所属の教員らによる報告がありました。

公開授業

- ☆公開授業を実施しました。
- 「日本文学概論B」11/14, 11/16, 11/30
- 複数担当者で、相互に授業を参観し、各自の工夫、取り入れたい観点など報告書をまとめ、共有しました。

学生による授業アンケート(Web形式)

☆春学期：2022/7/1~7/19

秋学期：2022/12/10~2023/1/21

全学年を対象に、ほぼ全ての授業（一部の少人数授業等を除く）について、Webアンケート形式にて実施しました。

（詳細は2ページ）

教育改革に関するプロジェクト

☆今年度は、4件のプロジェクトが実施されました。

- AWSを利用した教育環境整備、マニュアル作成及び集中講座の実施
- Raspberry Piを用いた実践的情報・IoT教育実施環境の整備と実施
- 「近代文学研究入門」に関する教科書活用による授業改善の取組
- 文学部「基礎ゼミナール」授業担当者による授業改善の取組

新規採用教員説明会

☆新任教員4名に対し、本学の建学の理念や教育研究に対する考え方、ディプロマポリシーの説明など、本学の教員として必要な姿勢等に関する説明会を4/1に実施しました。

2022年度 学生による授業アンケートについて

全学年を対象に、ほぼ全ての授業（一部の少人数授業等を除く）について、以下の期間にそれぞれ、Webアンケート形式にて実施しました。

春学期：2022/7/1～7/19

秋学期：2022/12/10～2023/1/21

＊個人が特定されないようにする配慮のため、履修人数が5名以下（大学院科目では4名以下）の科目は対象外とするなど一定の要件を設けています。

実施科目数		学部科目 501 大学院科目 12	学部科目 547 大学院科目 14
実施 教員数	専任	73名	72名
	非常勤	154名	165名

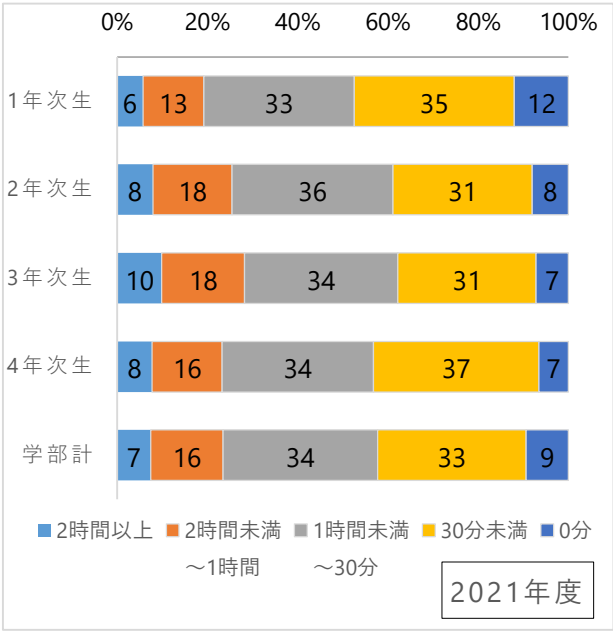
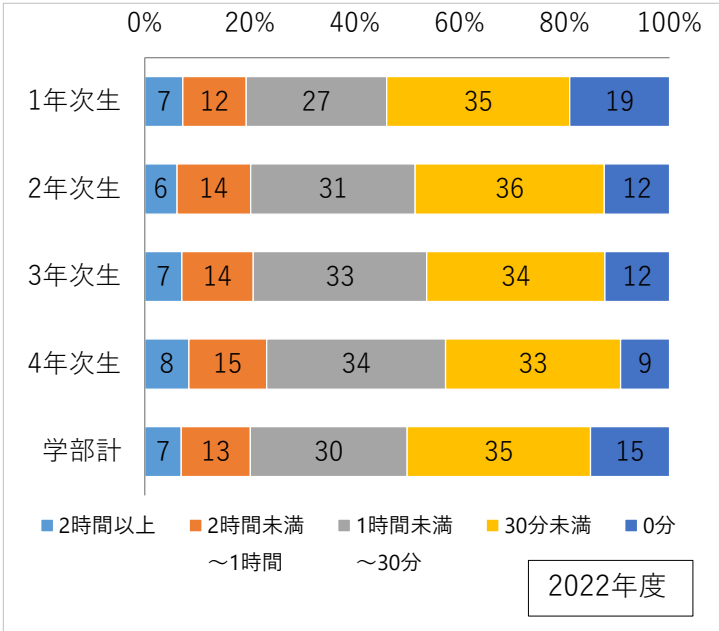
春学期の回答率は、学部32.6%（2021年度春セメスター：36.1%）、大学院37.5%（同：69.1%）。秋学期の回答率は、学部22.7%（2021年度秋セメスター：25.9%）、大学院24.4%（同：57.4%）でした。

近年では、アンケートの回答率が低下傾向にあり、回答率の向上が課題の一つになっています。このため、アンケートの回答時間を授業時間内（授業終了間際の10分程度）に設定して実施するなどの対策をしています。回答率を上げるには、更なる実施上の工夫が必要であると考えています。

自由記述にコメントを記載している学生は授業への出席率が高く、授業に積極的に出席している学生はアンケート回答にも積極的な傾向がみられ、その意見は大いに参考になります。

授業アンケートでは、学生の学修時間・学修行動の把握を行うため、以下のような設問を設定しています。各学年における今年度の春・秋学期を通しての学修時間の集計を毎年行っています。

A-3 あなたは1回の授業に対し、平均してどの程度予習・復習・関係文献の読書などの授業時間外の学習をしましたか。『授業時間外の学習』には、授業で課された課題・宿題、授業内容に関連して興味を持った記事・文献・図書等の読書、なども含みます。



一つの授業科目の授業1回分（1時限分）について、予習・復習等の授業時間外の学習時間は、昨年度に比べて減少傾向にあります。2022年度を通しての時間外学習時間が30分以上の学生の割合は50%なのに対し2021年度は57%、1時間以上の学生は20%なのに対し2021年度は23%となっています。

大学の授業は単位制に基づいて行われており、単位制は授業時間外の学習が前提になっている制度です。このため大学の授業は、授業時間外学習が適正に行われていないと、その内容の修得が適正に行えないということになります。授業時間外学習を適正量に増やすには、単位制に対する学生の自覚が必要になります。この醸成をサポートするため、学生への効果的・継続的な啓発活動等の実施などが今後の課題です。

2022年度 学生による授業アンケートについて

2022年度春学期に行った学生による授業アンケート結果に対する授業担当者のコメントシートから授業改善への取り組み事例を抽出して、大学全体レベルの授業改善の取り組みとして共有しました。

以下、取り組みの事例の一部をご紹介します。

授業科目によっては回答率が高い科目もあり、教員も手応えを感じたり、改善点を見出したり、試験やレポート以外での学生の学修成果や意欲を向上させるヒントを得られるとしてアンケートのフィードバックは重要な機会となっています。

2022年度春学期に実施した授業アンケートにおいて、教員からのコメントシート回収数（回収率）は、専任教員：39名（53.4%）、非常勤教員：87名（56.5%）でした。

教科書を使うだけでなく、詳細な説明を必要とする個所では補足の資料プリントを配ったが、これが好評であった。概説的な授業であっても、時に深く掘り下げた授業を交えることが、授業に対する興味を掻き立てるのではないかとという予想が、うまく当たったことは嬉しい。

対面講義に戻ったが、オンライン時代に使用していた、Webex(オンライン会議システム)を用いて講義の録画を続けており、休んだ学生や復習したい学生に対して利便を図っている。

毎回、テキストの要点をまとめたペーパーを配布しており、アンケートでは、それが理解に役立ったとの声があるので、今後も続けるようにしたい。

現場の経験に由来する実践的な情報が学生にとって新鮮でもあり、有益でもあったようなので、アカデミックな情報の提供にとどまらない実践的な側面を伝授することを心がけたい。

リアクションペーパーなどを活用して学生の意見や感想を紹介していますが、この部分について好評を得ていることが分かりました。講義科目であっても、周りの受講者が何を考えているのか知りたいということだと思います。

配布資料は基本的にA3で作成していたが、中洲講堂の机では見づらいことに気付いた。中洲講堂の授業では、資料のサイズを特別にB4、A4などに調整し、机のサイズに最適化しようと思う。

授業内でリアクションペーパーにコメントしながら復習と取り上げ直しができたこと、その授業スタイルが受講者に受け入れられたことがよかった。

グループ活動、課題などを不必要と感じたり、不満に思ったりしている受講生が一定数存在することを知った。グループ活動、課題の意義などについて、今一度説明し、その活動を行う必要性や意義を理解してもらうようにする。

大学教育学会課題研究集会

日時：2022年11月26日（土）～27日（日）（うち26日のみ参加）

開催形式：オンライン形式（主催校は東京都立大学）

統一テーマ：「**アセスメントプランの導入と大学教育の課題**」

東京薬科大学特命教授・東京工業大学名誉教授 矢野真和氏による基調講演「学習成果の多元性と教学マネジメントの課題」では、大学の大学教育の学習成果を**Output**として、①学業成績、②卒業時に身についた知識能力（専門知識、協調性、リーダーシップ、批判的思考などの汎用能力を含む12項目）、③学生生活全般の満足度を定義して、教育システムの最終結果とし、また、その**Output**が社会経済システムに与える影響の相対を**Outcome**として、①年収（市場の評価）、②職位（組織の評価）、③仕事の満足度（個人の満足度）を調査した成果をもとに報告され、大変興味深いものでした。卒業生の満足度は、専門講義に熱心に取り組み、高校の学業成績も高く真摯な学びを得た〈高い学業成績＝勤勉派〉、卒論の達成レベル・自律的な学びや積極的な学習態度に満足を得る〈高い汎用能力＝自立派〉、良い友人・良い教員との巡り合いに加えて部活動が大事と考える〈高い満足度＝友好派〉の3つに分類できたとのことでした。大学で過ごす時間の満足度は、その後の社会生活での満足度の基盤を作る重要な要因となるが、その当時は「なんとなくそんな気がする」という肯定的な感覚が重要なのではないか、と結論されていたのが印象的でした。

FD講演会

以下のとおりFD講演会及び大学院FD講演会を開催しました。

秋学期 FD講演会（全学FD）

2023年2月28日（火）13:55～16:05

『教育活動に向き合い立ち止まって振り返るーティーチング・ポートフォリオ作成の意義ー』

東京大学大学院教育学研究科 教授 栗田 佳代子氏

出席者：本学専任教員53名

* 欠席者は動画視聴にて、ワークを実施

2023年度4月から制度導入予定のティーチング・ポートフォリオについて、その概念や価値への理解を深め、より教育活動へ活かせるようワークショップ形式で行いました。現段階ではTPの活用は任意となっていますが、当日はTPの第一人者である講師をお招きし、2時間のワークショップを実施しました。ワークショップは初めての試みでしたが、出席した教員からは、「普段は意識していない自分自身の授業実施の理念について、気づくことができた」「実際、考え、手を動かすことで、実感できた。」など、大変有意義であったというご感想が多く寄せられました。教員側もティーチング・ポートフォリオについて理解し、その価値を知ることで、今後も学修者本位の学びの実現のための取組みを進めていきます。



秋学期 第2回 FD講演会（大学院FD及び全学FD）

2023年3月23日（木）10:00～12:00

（大学院FD）『研究指導におけるハラスメントについて』

（全学FD）『他大学の研究費不正事案について』

出席者：60名（対面14名 オンライン46名）

弁護士 青龍 美和子氏

学 長 江藤 茂博

* 欠席者は録画視聴

今年度の大学院FDとして「研究指導におけるハラスメントについて」と題し、ご講演をいただきました。東京弁護士会の青龍美和子弁護士は多様なハラスメント問題についてのご講演実績も多く、多方面でご活躍です。

教育機関というある意味で閉鎖的になりがちな環境でのハラスメントについて、教員と学生との関係において生じる問題に関連する法令などについて解説していただきました。また本学のハラスメント防止のためのガイドラインも丁寧に参照しながら、大学や教員がその研究指導について留意すべき点をお話しいただきました。

全学FD講演としては、学長から研究活動における不正防止について事例を交えて、お話いただきました。

本学の規程にある「不正にかかる判断基準」を示し、研究活動そのものを正しく行い、今後も研究不正のない大学として成長していけるように、研究者自身がいつでも証明できるよう努めなければならないことを全教員に改めて再認識するよう強く希求されました。



二松學舎大学

2023年3月31日発行
【お問い合わせ先】 二松学舎大学 大学改革推進課

TEL: (03)3261-1285

FAX: (03)3261-7413

E-mail: gakumu@nishogakusha-u.ac.jp